

藤原広嗣

～奈良時代の貴公子：藤原広嗣と唐津～

分野

歴史

◎地図・写真・統計資料など

■藤原広嗣の乱

藤原広嗣は、藤原鎌足一不比等一字合と続く藤原家嫡流の貴公子である。朝廷において圧倒的な権力を誇っていた藤原四兄弟が天然痘の流行によって相次いで死去。藤原氏の勢力は大きく後退し、宇合の長男、広嗣は大養徳(大和)守から太宰少貳に任じられ、太宰府に赴任した。これを左遷と感じた広嗣は、天平12年(740年)8月29日、天地による災厄の元凶は、反藤原勢力の吉備真備と僧玄昉に起因するとの上奏文を朝廷に送った。聖武天皇は、広嗣の召喚の勅を出すのが、従わず、広嗣は天平12年、弟の綱手とともに太宰府の手勢や隼人などを加えた1万余を率いて反乱を起こした。聖武天皇は広嗣を反逆者として、大野東人を大將軍に任命し、兵1万7千人を授けて広嗣討伐を命じた。広嗣は追討軍に敗走し、最後は肥前国松浦郡に逃れ、値賀浦から耽(韓国の済州島)へ亡命しようとしたが、逆風に吹き戻されて、値嘉島の長野村に漂着し、そこで討伐の軍に捕らえられ、松浦郡で処刑された。

吉備真備は天平勝宝2年(750)筑前守に任じられて下向し、広嗣の怨霊鎮めにつとめ鏡神社を建立した。

また、広嗣処刑の地とされている浜玉町五反田には、広嗣鎮魂のための無怨寺が建立された。建立したのは五反田村の庄屋加茂丹後で、建立までの流れがわかる手紙が現存している。現在の大村神社である。



鏡神社二の宮
(『鎮西町史上巻』より)



大村神社境内・浜玉町
(『浜玉町史上巻』より)



藤原広嗣の乱関係図(ウィキペディアより)

◎引用・参考文献(出典)

- ◆『鎮西町史』 P314
- ◆『松浦風土記』一巻之上
2.鏡神社 二ノ宮之事

◎エピソード・伝承・うんちく など

■鎮西町早田にもある広嗣伝承

広嗣が追手を逃れ身を隠したとされる洲の地では、後に広嗣の死を知った村人が洲野権現社を建て霊を祭った。この社の神田には下肥をやってはならないとされ初穂を奉納するという。また一説には、稚茶木の下で自害したともいわれ、そこに稚茶木権現を祭って霊を慰めた。この下の田には毎年一羽の白鷺が飛んでくるようになり、これを「権現様の使い」といった。広嗣の遺体を埋葬したところを伽藍野、あるいは藤原原といい、ここには昔、松の大木があり、これを切り倒した木こり二人は盲目になったという伝説もある。いずれの権現社も早田鎮守神社に合祀されている。

■肥前町には「馬ノ部(まのはまり)」という地名がある。

これは、広嗣の馬がはまり込んだことにちなんだ地名という。

大村神社の成立 音なしの祭り(家に引きこもる祭りがある)

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html